

今回は、先月号に引き続き『家庭の日』の3回目を掲載しますので、参考にしてください。

執筆者「学校週5日制時代を考える会」 平井幸成

「家庭の日」について2回にわたって書いてきましたが、今回をもって終わらせていただきます。

「家庭の日」を勧める時、家族の変化を考えないわけにはいきません。確かに最近夫婦共働きが増え、当然のこととなっております。

「家庭の日」は、そうした共働きの家庭でも、子どもたちを健全に育てるためにはどうしたらよいか、仕事に追われて忙しい中で不足しがちな夫婦・親子のコミュニケーションを活発にし、家族の絆を強めるためには、どんな工夫が必要かなどを考える日として有意義なものとなるのです。初期の「家庭の日」の考え方のなかには「家族揃って遊園地へ」とか「ピクニックへ」などと家族団欒(だんらん)を強調する様なところもありました。

しかし、それも一つの在り方で、家族の人間関係や結びつきを深める手段としては良いと思いますが、それだけが目的ではないのです。家族の

役割や協力、責任、思いやりなど人として大切なことへの考えなどを話し合うことも大切です。

家庭といえば、女性の領域と考えがちですが、これからはむしろ男性が家庭生活にどうかわるかということが重要です。現代の家庭の教育機能の低下は核家族が本来もっている教育機能を十分に発揮できない状況にあるからだとされています。

その代表的なのが「父親不在」です。最近の子どもが「忍耐力がない」「氣力が欠ける」「些細(ささい)なことでも挫折する」「抑止力に欠ける」などの傾向があるのは父親による訓練不足だといわれています。

また、家庭を孤立させることなく、地域との連帯を強めるためにも父親たちの参加・協力が重要です。

これからの「家庭の日」を考える場合、大切なことは現在の家庭の状況を考へての内容にすることで、状況に応じて変化させる柔軟さが重要です。

子どもの社会化という面で考えても乳幼児のいる家庭、小中学生のいる家庭、また、高校生のいる家庭では、親子関係は当然異なったものになります。すべての家庭を対象にしたものと普遍的な内容になってしまいます。



「家庭の日」は、ある特定の日に限定したり、内容を統一したりする必要はなく、さまざまな家庭があるように、さまざまな内容の「家庭の日」があつてよいのです。

「家庭の日」の工夫

① 食卓の輪から家族の輪

人間にとつて「食べる」ということは、成長のために栄養をとるといふことだけでなく、もっと大きな意味があります。飲食を共にすることによって家族の絆は深まり、協力的な思いやりの心を育て、家族の一員としての喜びを感じます。時には、家族で食事を作ったり、片づけたりすることで一層食事を楽しいものにしてきてくれます。

② 家族を結ぶはがき作戦

単身赴任のお父さん、あるいは、遠く離れて暮らしているおじいちゃん、おばあちゃんに宛て、家族みんなではがきを書きます。

家族と離れて暮らしている人にとつては、電話で話すのとは違つてはがき(文章)で書かれたものは、どれ程気持ちを癒してくれるかわかりません。最初は文章を書くのが苦手だった子どもを重ねるごとに上手になり、考えも広まり、友達や先生にも書く様になるでしょう。

③ チャレンジ曜日の設定を

第一日曜日に限らず、我が家の「家庭の日」を設定し、その日を「チャレンジ曜日」とします。

日頃忙しくて出来なかつた家の仕事、家の近くの道路や広場の清掃など、内容は様々ですが、家族で出来ることをチャレンジ目標に定め実践します。こうした活動を通して、助け合いの気持ちや人を思いやる優しい心が育ちます。

④ 我が町探訪

近頃は大人も子どもも忙しく、家と職場の往復で地域への関心も薄れがちです。

日頃の運動不足やストレス解消も兼ね、家族との散歩でお父さん、お母さんの子ども、の頃遊んだ山や川、お宮やお寺など、日頃の疲れも忘れて会話は弾みます。子ども達も日頃行つたこともないお宮やお寺を知り、親の子どもも頃を知つて、友達の様々楽しいひと時となるでしょう。

⑤ 地域行事を一体化した「家庭の日」

ある町では町内会が「ふるさとづくり」と各種団体に呼びかけて、年5つの祭りを実行しています。それに家族そろつての参加を呼びかけています。ア環境美化まつり、イ夏まつり、ウ体育祭り、エ秋まつり、オ福祉まつりなどを実行し、家族・地域の連帯感を高めています。

以上、3回にわたつて「家庭の日」について書きました。この記事を書いている間にも「ひつたり事件」「家族への死傷事件」など青少年による非行が報道されています。こうしたことからしても「家庭の日」の重要性が感じられます。これからも「家庭の日」を重視し、魅力あるものにするため、家庭や地域の実状をふまえ、創意工夫し、実践して家族の絆を深め、より健全な子どもが育成されますことを祈念いたします。